

天地

ネットワークテーブル 565号

天地シニアネットワーク 2025. 3. 16

過去発行分 (WEB) : <https://temti-senior.com/>

TENTI TODAY (受信メール)			1
会員の広場			3
随 想	時代は再び製造業を重視し始めた	臺 一 朗	3
歴 史	悪童転じて総理大臣になる(下)	望田武司	5
歴 史	「了解日本(日本を知る)」(29)国民的祭典の進化(1)	兪 彭 年	10
歴 史	E・ライシャワーの日本昭和史(10・最終回)	津田 孚 人	12
講演会	「新三木会・特別講話」「奈良興福寺佛教文化講座」		15
事務局			

T E N T I T O D A Y

グレートなアメリカに向かって米国・トランプ大統領がまっしぐらに突き進んでいます。現実的には、戦後の国際的な協調体制が、一気に崩れることはないと思われますが、大きな混乱はありそうです。関税の引き上げ競争は、各国経済に大打撃となり、インフレと不況の時代がきます。日本は、円安下の不況がつづき、外国資本による日本の企業、不動産などの買収が増えそうです。歓迎しない悪夢に、日本がどこまで耐えられるか、大変気になります。

米大リーグの開幕戦、ドジャース対カブスの試合に、わくわくしています。大谷選手以下、両チーム合わせて5人の日本人選手が先発出場することに興奮しています。戦後間もない昭和24年に初めて米大リーグのチーム(オールド監督率いる、3Aのサンフランシスコ・シールズ)が来日したときに、後樂園球場で初めて外国人選手をみました。以来、日本人、特に日本人アスリートの身体的な格差は、如何ともしがたい、と思っていましたので、今回、日本人選手が5人も米国チームのスタメンに連なるのは、まったくの驚きです。大谷選手の特大的ホームランを期待しています。

大相撲大阪場所、新横綱の誕生に加え、星のつぶし合いも激しく連日大いににぎわっています。テレビで最近特に気になるのが、土俵際の客席。有名人の顔も気になりますが、常連さんの顔が見えないときになります。

土俵に一番近いところで取組を観られる「溜席」は、土俵の周囲四方に約 500 席あり、そのうち本場所で力士の技能審査をする立会人という位置付けの「維持員」が15日間を通して座る席があり、東京(1月・5月・9月)、大阪(3月)、名古屋(7月)は300席、福岡(11月)は250席が維持員席になっているそうです。維持員になるには協会に維持費(寄付金)の3年分を一括で支払う必要があり、東京は年3場所405万円(3年分)、その他は年1場所3年112.5万円(同)という額になるそうで

す。「溜席」の料金、一日当たりを計算すると、東京は、3万円、その他は2万5千円となります。“砂かぶり”とも言われる「溜席」、テレビ映りもあり、好角家には高くないのかもしれませんが。

その大相撲も、最近は力士が減り、大ピンチを迎えているようです。報道では、ピークだった1994年夏場所の943人から、2024年の初場所ですが、599人と大きく減少している。そのせいでしょうか外人力士が増えているようです。現在行われている大阪場所では、幕内以上の外人力士がモンゴル・6人、ウルグアイ・2人、カザフスタン・1人の計9人です。ただ土俵上では、日本人力士とあまり変わりませんので、問題ないようですが・・・。

受信メール(受信順に掲載させていただきます)

寒波に外出制限されていましたが、遅れた同級生の「新年会」に誘われて神楽坂周辺をぶらぶらしています。そんな場で「天地シニアネットワーク」の活動を紹介することがありますが、10歳後輩でありながら「おしゃべり」は達者ですが「文章作成」は苦手なようです。私は、今回もしっかり読み込みたいと思います。**神崎さん**

「悪童転じて総理大臣になる(上)」は特に面白く拝読しました。母方の伯父が明治20年代、17, 8歳(?)で北海道に移り住み、従兄たち二人が北大を出たこともあって、私はかなり幼いころから北海道、札幌、札幌農学校などに強い関心を持つようになっていましたので、一段と面白く読めたのかもしれませんが。石橋湛山と札幌農学校とのこのような関係は全く知らないことでした。次号を楽しみにしています。**相島さん**

久し振りに天地リポート見ました。“継続は力なり”ですね。私のかつての部下だった一橋卒の人間が最近とても興味深いメモを書きました。やる気を失っている若者、またトランプのやりたい放題に対応する為にも是非読んでもらいたいメモです。今度お会いする機会にコピー渡します。乞う期待！ **森田さん**

ライシャワーについて、親子二代に渡って、日本に貢献してくれたことを再度、認識しました。特に、先の大戦中、アメリカの陸軍通信隊に所属したとき、日本人の中には、教養人もいることを伝えていてくれたことは、日本にとって幸運だったと思いました。また、京都が空襲を受けなくてすんだことは、日本を理解している文化人が、アメリカにいたことなど、感謝しなければと思いました。石橋湛山が、まさか、クラーク博士まで、さかのぼって、薫陶を与えられているとは、恐れ入りました。そして、札幌の時計台も、札幌農学校の「演武場」だったことなど、その真意を周知してほしいものです。 **酒井さん**

札幌農学校のことを記述されていた望田氏の寄稿文に興味をもちました。まだまだ知らないことばかりで、皆さまの投稿文に触発されています。“知るを楽しむ”生活を続けたいと思っています。当方、2月中旬の大雪→雪かき→疲労困憊→整形外科へ通院と80歳になって体力の衰えを実感しています。でも施設に入居している教会信徒のお世話を続けています。**志賀さん**

会員の広場

時代は再び製造業を重視し始めた

臺 一郎（76歳）

数年前まで、G7等の西側先進国ではIT産業や金融業やサービス業こそが現代における主要な基幹産業という認識が定着し、製造業に代表されるモノ造り系の業種は過去のものとの印象が強まっていた。ところが最近再び、製造業こそが国家にとってひとときわ重要で不可欠な産業ではないかとの認識が強まり始めたように思われる。

2022年の2月24日、以前からウクライナ国境に大量の戦車部隊を集結させていたロシアはウクライナへの軍事侵攻に踏み切った。以来、当初の予測とは違って、3年以上にわたり戦争は続いた。そしてこの戦争は、戦時における武器弾薬等の物量消費のすさまじさを改めて世界に気づかせるとともに、製造業等のモノづくり産業の強固な存在と継続的な生産活動こそが国家の存続と維持に不可欠であることを認識させた。

ところで米国は過去30年間以上にわたって、国の産業政策の軸足をもっぱらIT産業や金融業や各種サービス業等に置くようになった。その結果、高学歴な若者の多くが給与や所得の恵まれたIT産業や金融業へと流れ、一方低学歴の若者は仕事がより多様で求人数も多いサービス業へと流れ、製造業等の物づくりの現場に若者は殆ど就職しなくなった。

米国国防総省は2024年1月11日、バイデン大統領の下で国家防衛戦略（National Defense Industrial Strategy）報告書を発表した。その中で、軍備にとって最も重要且つ必要で、米国経済の原動力産業である製造業を再び活性化させることの重要性及びそのための枠組み等を提案した。

同文書は、過去数十年にわたる米国の脱工業化の進行が軍事的脆弱性をもたらしたことを指摘した上で、海外移転により空洞化の進んだ生産能力の早急な国内回帰の必要性を指摘した。また労働者のスキルの向上、軍需品調達プロセスの刷新、民間の革新的企業を公共セクターのリソースと提携させることなどを提言した。

この文書の中でとりわけ危機感を持って指摘されたのが、米国における商業的造船業の惨状である。米国は医薬品、レアアース、デジタル機器等のあらゆるモノの供給を船舶による海外からの輸入に依存している。にもかかわらず貨物のバラ積み船、コンテナ船、タンカー等の「商業船舶」の建造は実質的に停止してしまっている。

ちなみに1983年から2013年まで30年間で、米国では約300の造船所が消えたという。結果、現在大型の商業船舶を建造できる造船所数はわずか4カ所のみ。第二次世界大戦の終戦時、米国は11の海軍公共造船所と60以上の民間造船所を擁し、それらの造船所は海軍艦艇の生産記録を打ち立てたのに、である。

また米国海軍情報局の調査によれば、2024年の米国の造船所における造船能力は僅かに年間10万トンたらず。一方、発展著しい中国のそれは年間2325万トンにも及ぶ。つまり米国の造船能力は中国のなんと0.5%しかないのだ。

こうした造船能力の差により、現在両国の海軍艦艇数は中国が 234 隻、米国が 219 隻と隻数では既に中国が米国を上回る。更にこれが 2030 年になると、中国は 460 隻へとほぼ倍増し、米国も増加するが 260 隻に留まるために米中の差はいつそう拡大する。しかも現状中国は保有艦船の 70% が 2010 年以降の進水船なのに対し、米国のそれは 25% である。

造船所や工員数の大幅な減少によって、今や米国内に 2 か所ある原子力艦船の造船所では納期の大幅な遅延が常態化している。そして米国の造船所におけるより切実な問題は、設計やエンジニアリングに従事する高級な技術者の不足よりも、高度な溶接スキル等を有する経験豊富な技能工の絶対的不足だという。

こうした軍事関連の製造業の衰退は、弾薬やミサイルなどの消耗材の生産・供給能力の不足をも引き起こしているし、軍用機の素材として使える高水準のアルミニウムを生産する精錬所が今や米国内には 1 つしかないとか、海軍の艦船用の巨大なディーゼルエンジンの生産工場も今や米国内には 1 つしかないなどの事態を招いている。

また我が国でも次世代のステルス戦闘機として米国からの調達が始まったロッキード・マーチン社の F35 は、世界各国が導入を切望する人気機種だが、米国での生産能力や供給能力の不足により、同盟国向けの機材でさえ納入が遅れている。このため空母化改修が進む護衛艦「いずも」や「かが」は、肝心の艦載機 F35-B の納入時期が未だに確定できない。

今後の米国は、いざ有事となっても艦船や戦闘機のみならず弾薬やミサイル等の消耗品の生産/供給が全く追いつかず、韓国やオーストラリアなどの同盟国や友好国に生産と供給を依存するという情けない国となり始めている。

昨年あたりから、バイデンやトランプが日本製鉄による US スチール買収に関して絶対反対と言い始めた背景には、大統領選挙期間中という時期の特殊性に加えて、米国における製造業のぞっとするほどの空洞化と衰退化の進行への危機感がありそうだ。

また、トランプが大統領に就任するやいなや、各国に対して関税引き上げを通告したのも、「米国へは製品輸出でなく直接投資による工場進出をしろ」、「もしこのまま米国への製品輸出を続けるなら関税を大幅に引き上げるぞ」というディールや恫喝であり、その真のもくろみは米国の製造業の復活や再興なのである。

しかし筆者の視るところ、トランプが目指す米国製造業の復活は簡単には成功しないだろう。トランプの大統領任期は 4 年足らずだ。その間に復活させるには、米国製造業は空洞化や衰退化が進み過ぎているし、ましてや有能な技能工は 4 年足らずで育成や養成ができる人材ではないからだ。

それにしても我が国は、国家の安全と平和をそんな情けない国に大きく依存しているのかと思うと、心許なくなる。改めて、日本国内においても製造業の増強や立て直しの必要性を痛感する。10 年乃至は 20 年計画で、有能な技能工の育成・養成や先進的な技能ロボットの開発を実現し、製造業の足腰や底力を強化することこそが我が国の安全保障政策の強固な裏付けになると思うからだ。

悪童転じて総理大臣になる（下）

望田 武司（札幌市）（81歳）

t21xmochida@feel.ocn.ne.jp

黒田開拓長官はクラーク博士に、学校運営が軌道に乗るまで2年間は札幌にいてほしいと要請するが、学長が2年も不在というわけにはいかないと、1年契約で札幌に来た。年俸は7000円、今のお金にして7000万円、学長時代の報酬の2倍以上、黒田長官ははずんだ。

ところがクラーク博士は実際には8か月余しか札幌にいなかった。というのも契約は何というのか“ドア・ツー・ドア契約”である。アメリカ東部のボストンの自宅で「では、母ちゃん札幌に行ってくるよ」とチュッをした時から始まり、アメリカ大陸を横断して西部のサンフランシスコへ、船で太平洋を渡って横浜へ、そこで船を乗り換えて小樽へ、小樽からはまだ鉄道が敷かれてない時代である。馬で札幌に到着するのにあわせて2か月かかった。従って往復考えて札幌在住は8か月で任期満了である。1年契約でも2年分の仕事をするとは張り切ってきたクラーク博士は精力的に動いた。

札幌農学校は農学が専門でありながら、クラーク教頭の意向でアメリカのリベラル・アーツを取り入れ、課外活動として聖書の勉強会や弁論大会、最新の思想の研究など文科系の分野も重視した。よく言われる＜全人教育＞を実践した。

その結果、僅か8か月の間に、自由・独立・自主というこれまでの日本になかった新たな精神、ものの捉え方を生徒に教えた。また日本で最初のフィールドワーク（課外学習）と言われる真冬の手稲山登山では、もうこれ以上歩けないという生徒のために馬を求めて乗せ、最後部から歩いて付き添うクラーク教頭の人間愛を直接見て、他の生徒は感激の涙を流したという。

クラーク教頭が発信する新しい息吹と人間愛がにじみ出た言動に生徒はすっかりしびれ、一期生全員がキリスト教を信ずるようになるのである。すごい吸引力と言うかカリスマ性である。クラーク博士は「神の前、天地に恥じざる人間となれ」と諭したという。150年たってもいまだに僅か8か月しか日本にいなかったクラーク博士の名前が、国民の頭の片隅に残っている。それというのも帰国する時生徒に向かって“Boys, be ambitious!”という名言を残したからであろうか。それもあるかもしれないが、何といっても戦前の国家主義に代わって戦後の民主主義教育が、クラーク博士の薫陶を受けた人たちによって引き継がれているからだと言われる。



（写真：離札の日、札幌から数キロ離れた今日の北広島市島松の休憩所まで付いてきた学生に、ここで別れようと“Boys, be ambitious!”の言葉を投げかけるクラーク博士と、涙を流して手を振る生徒たちとの別れの歴史画）

札幌農学校が開校して1年後に二期生が入学してきた。一期生と同じように横浜から乗って札幌に着いた二期生を、先輩の一期生が待ち構えて温かく迎えてくれるのかと思ったら、誰一人外に出ている人はいなかった。ただ校舎の中から静かな歌声が聞こえてきた。讃美歌である。おかしい学校に入ったものだと思っただけで二期生は思ったに違いない。しかし、寄宿舎で寝食を共に生活する寮生が倍増して学校は賑やかになってきた。クラーク先生というと札幌滞在8か月で、すでに札幌を離れているので、二期生はク

ラーク先生から直接薫陶は受けることはなかった。ところが驚くことに一期生と一つ屋根の寄宿舎生活をしている二期生の多くも、キリスト教を信ずるようになった。しかも二期生には後の日本に大きな影響を及ぼす”大物“がぞろぞろいた。

ここで大きな力を発揮して二期生を説得したのが、クラーク先生から直接薫陶を受けた一期生のリーダー格の大島正健であった。とくに一期生から自主・独立・自由のクラーク精神を引き継いだ二期生の新渡戸稲造が、後に旧制一高（現東京大学教養学部）の校長になったとき、その教え子たちが戦後新憲法のもとで、新しい教育基本法を誕生させる原動力となった当時の生徒は、卒業式が終わっても、新渡戸校長の話の間こうと、校長自宅まで押し掛けたという。

（写真：旧制一高校長時代の新渡戸）



大学進学率 10%ほどの新潟の田舎の高校を出た私は、卒業式直後に生徒が先生の所に行くというのは、在学中に先生に抵抗すると停学や退学になるのを怖れていたが、卒業すればもう退学にはならないと、ふだん気に食わない先生を一発ぶん殴りに行くというのが相場であった。旧制一高とはだいぶ生徒の質が違っていた。

新渡戸稲造が旧制一高の校長になった時、旧制一高に入学した南原繁（写真）



は、新渡戸校長から「自分の内面から人間を築き上げよう」という教えを受け、また同じ二期生の宗教家の内村鑑三の門下生となって、迫りくるファシズムに対して大学の自治を訴えて敢然と国家権力に立ち向かっていた。戦後になって初代の東京大学の総長に迎えられ、戦前の教育勅語に代わって、真理と平和を希求する人間関係を掲げたく戦後の教育憲法＞と言われた教育基本法の草案作りに携わった。

また南原繁に続いて戦後二代目の東大総長になった矢内原忠雄（写真）は神戸中学時代、札幌農学校 3 期生の校長からクラーク精神を学び、旧制一高に進学して二期生の内村鑑三から「神」を、新渡戸校長から「人」を学んだ。

その結果戦前のファシズムの中で東京帝国大学教授となっていた矢内原は軍部の中国侵略を激しく批判して東大を追われた。戦後 2 代目の総長に復帰した矢内原は、五月祭で次のような講演をしている。



＜明治の初年において日本の大学教育に二つの大きな中心があり、一つは東京大学、一つは札幌農学校でありました。この二つの学校が日本の教育における国家主義と民主主義という二大思想の源流を作りました。ところが札幌から発した所の『人間を造る』というリベラルな教育が主流となることができず、東京大学が発した所の国家主義・国体論・皇室中心主義、そういうものが日本の教育の支配的な指導理念を形成しました。その極み、ついに太平洋戦争を引き起こし、敗戦後日本の教育を作り直すという段階にいま来ているのであります＞

教育と言うのはすぐにその効果が現れるものではない。江戸時代、あまたある藩の中で米沢藩（上杉鷹山の興譲館）、会津藩（松平容保の日新館）、肥前藩（鍋島直正の弘道館）、薩摩藩（島津斉彬の造士館）のように、教育に熱心だった藩から歴史に登場する人材だけでなく、藩そのものも歴史に残る動きをした。

明治の初めに、クラーク博士が札幌農学校で教えた民主主義は、一期生から二期生へと、そして旧制一高校長となった二期生の新渡戸稲造や思想家の内村鑑三の薫陶を受けた教え子らによって、新憲法のもとで日本の民主主義を根付かせる教育基本法が成立された。札幌農学校にわずか 8 か月しかいなかったクラーク博士の蒔いた種は、国家主義・皇国中心主義が蔓延していた明治・大正そして昭和の前半を越えて、ようやく戦後芽吹いてきたのである。

クラーク博士の名が、今なお国民の頭の片隅に残っているのも、むべなるかなと思わざるを得ない。「教育は文物制度がモノを言うのではなく、偉大な人格の力が原動力であることをつくづく思わせる」大島正健はクラーク博士との出会いを振り返ってこう言っている。

ところが興味深いことに、札幌農学校ではクラーク先生が札幌を離れた直後に入学した二期生の中で広がった基督教に、拒否反応を示した反逆児がいた。そのような邪教はつぶしてやると息巻く力強い学生が現れたのだ。その二期生は後に聖書を生涯の友とし、宗教家・思想家として新渡戸稲造以上に国民に影響を与えた男、内村鑑三であった。

内村鑑三(写真)と言うと、聖書の研究者であり、基督教を信奉した宗教家として知られ、とくに日露戦争の非戦論を唱えて国民に大きな影響を与えた思想家でもあった。その男が、札幌農学校で蔓延していた基督教に拒否反応を示して、一期生の勧誘に背を向け、逆にそのような邪教はつぶしてやると息巻いたのだ。



内村鑑三は高崎藩士(群馬)の息子で、高崎藩の江戸藩邸で生まれたので、時に東京出身と言われることもあるが、地元では群馬が生んだ偉人としてカルタの顔にもなっている。内村と同じ二期生には多才な同級生がいた。

▲のちに旧制一高の校長、東京女子大学の初代学長となった新渡戸稲造(南部藩)
▲ハーバード大学に留学した後、北大植物園を自ら作って、定年までの 30 数年間植物園長を務め、植物学者として初めて文化勲章を授与された宮部金吾(旗本)、
▲さらには横浜港など本州の港の防波堤が長く持たず崩壊する中で、北国の荒波に耐え、今なお現役の小樽港の防波堤を作り、東京帝大の土木工学の主任教授に招聘されて日本の土木工学のパイオニアとなった広井勇(土佐藩)など、それぞれの分野で功績を残した人物を輩出した。



(写真 左から新渡戸稲造、宮部金吾、小樽運河に建つ広井勇像)

新渡戸稲造は教育者だけでなく、戦前の国際連盟の初代の事務次長として、領土問題で一触即発のスウェーデンとフィンランドのオーランド諸島をめぐる紛争を「新渡戸裁定」で解決させるなどの国際人でもあって 5000 円札の顔になり、宮部金吾は札幌に多くの縁を残してしてくれたとして札幌市の名誉市民第一号となった、後世の北大研究者は内村も含めて・宮部・新渡戸の二期生の三人を、「札幌農学校の3賢人」と呼んでいる。3人は心を許しあった生涯の友として付き合いながら、それぞれの分野で活躍するが、なかんずく内村鑑三は二期生の中でも首席を通した“超秀才”でもあった。



(写真 右から若き頃の内村・宮部・新渡戸)

仏教の世界では自らの宗派に入るよう説得するのを「折伏(しゃくふく)」というが、キリスト教の世界ではそのような言葉があるのだろうか、知らない。一期先輩で一番の元気印・大島正健は、同じ寄宿舎で生活している後輩を次々に勧誘するのである。なぜ内村鑑三はかたくなまでに拒否したのであろうか。

内村鑑三は生まれてきたとき、父親から「鑑三」と言う名前を付けられた。アメリカに密出国してクラーク博士の大学で授業を受け、帰国後同志社を作ってキリスト教を広めた新島襄(前橋藩)が、女ばかり生まれてきて後継ぎができない新島家で、初めて生まれた男の子の誕生に祖父が大喜び、{しめた!}と叫んで「七五三太(しめた)」と名前を付けたのとはわけが違っていた。(七五三太は後に「襄」となる。)
「鑑三」とはく三度自分を鑑みる>、人生三度は自分を振り返ってみて生きていきなさいという意味である。

この奥の深い言葉を息子の名につけた鑑三の父親は、高崎藩の国学者であった。幼き時より尊父から儒学を学び、その精神を信じてすくすく育ち、後の東京大学の予備門として位置付けられていた東京英語学校で学んでいたが、経済的な理由などもあって、お金のかからない札幌農学校に二期生として入学した。一期生二期生合わせて 50 人程の小さな学校の寄宿舎である。寝食共にする学生同士で、最後まで入信を拒み続けていた内村鑑三は、振り向いてみると仲の良かった新渡戸稲造や宮部金吾はすでに入信していることを知り、鑑三も次第にキリスト教に心を開くようになった。

この時の様子を内村鑑三教化の先頭に立っていた大島正健は次のように書いている。

「受洗によって元気づいた一期生は、ミッシヨナリー・モンク(耶蘇坊主)という仇名をつけられた私を先頭に、フレッシュマンの二期生一同を教化しようと猛烈に突撃した。怒髪冠をついた鑑三は、血迷った上級生を日本固有の宗教に引き戻して、尊い日本精神に蘇らせてやろうと意気軒高たるものがあつた。が、日がたつにつれて心を許した友である新渡戸や宮部も続々と敵陣に走って、鑑三一人が逆に異教徒の名を冠せられる情勢になってきたではないか。

精神的に孤立無援になった内村は、ある日札幌神社(今の北海道神宮)に詣でて社殿にぬかずき、神々の加護により校内の耶蘇教が退治せられ、上級生が夢さめて誠の日本精神に立ち帰らんことを 心を込めて祈願した。

寄宿舎に戻ってみたが四面楚歌、頑強な内村に対する突撃は熱烈をきわめ、とくにダニのように食い下がるミッシヨナリー・モンクの諄々たる説話にさすがの鑑三も弱らされた。

ついに頑物鑑三の心の扉が開けて光がさし入ったことを知った時、学友たちは大いに喜び、力強い彼を擁して教団の強化に邁進した」

(クラーク先生とその弟子たちより: 大島正健 著)

後年宗教家・思想家として名を残す内村鑑三とキリスト教の出会いを、ユーモアを交えて書かれた貴重な証言である。学生たちはお互いにクリスチャンネームで呼び合う仲となり、ある祝宴の準備の様子を、内村鑑三は次のように書いている。「我らの植物学者フランシス(宮部金吾)はタンポポの葉がどこにあるのか知っており、余は彼の採集容器を携へてそれに一杯この美味なる植物を採集するために遣られた。熟練なる化学者にして且つ常に料理学の理論と実際の第一人者であったフレデリック(高木玉五郎)はアルカリと塩・砂糖を以て用意を整えていた。文学的なパウロ(新渡戸稲造)は何時でもこういう時には怠け者であった。」

(余はいかにして基督教徒になりしか より: 内村鑑三 著)

札幌農学校で知り合った学友同士の結びつきは、キリスト教を通じて強く、国内外の広い分野で活躍した新渡戸稲造が没した時に弔辞を読んだのは、農学校時代の一番の友人宮部金吾だった。

また日本の土木工学のパイオニア広井勇が亡くなった時も、同期の内村鑑三が弔辞を読み「橋に防波堤に、あれだけの大事業を成し遂げたのに質素な家で生涯を閉じた“清きエンジニア”だった」と崇高な信仰心で通した広井勇の人生を讃えた。贈収賄が日常茶飯事だった建設業界にあって、広井は報償を一切受け取らず、還暦祝い寄せられた祝い金も母校の北大工学部と土木学会に寄附したほど潔白だった。

春秋に富む学生時代に知り合えた友が、自分の人生を左右する生涯の友となったことがよくわかる。

ここに一枚の貴重な写真がある。受洗 50 年を記念して、立ち会った宣教師が眠る東京青山墓地の墓前を参拝した 60 代後半の左から内村、広井、新渡戸、大島である。



私も学生時代、幾多の示唆をもらった寄宿舍生活を送り過ぎて、4 年で卒業できなかっただけに、定年後上京するたびに学生時代の友人と必ず一杯やっていたが、すでに 80 の齢を越して一人抜け、二人抜けと、とても寂しい限り、そろそろ自分も断捨離の準備でもしなければならぬかと思っている。

宗教家・思想家として活躍する内村鑑三は、教育勅語に最敬礼しなかったとして不敬罪に問われて教職の座を追われ、日露戦争では非戦論を唱えて住民から石ころを投げられるなど、精神面経済面で苦境に陥るときもあったが、こうした時に大島正健が訪ねてきてくれて大変うれしかったと言っている。

また札幌農学校を作った黒田清隆開拓長官が、二代目の総理大臣を退いて逝去した時、次のような熱烈な弔辞を捧げている。

嗚呼 黒田伯なかりせば 札幌農学校はなかりしなり。

農学校なかりせば 余は札幌行かざりしなり

札幌に行かざりしなば 余は聖書と基督教に接せざりしなり

若し之に接し之を信ぜざりしならば 余の今日の不幸と幸福とはなかりしならん

内村鑑三をキリスト教に誘った中心人物の大島正健が、山梨中学の校長になって、クラーク博士の自由・独立・自主の精神を生徒に教えると、目からうろこが落ちたとし

て、悪童転じて総理大臣になった石橋湛山が、大島校長が永眠した 25 年後、ちょうど総理の座を退いた 5 年後、大島校長の薫陶を受けた山梨中学から名称の変わった甲府中学の卒業生が追悼晩餐会を開いた。夫人に手を引かれて参加した石橋湛山はテーブルスピーチで「正健先生の顕彰碑を建てたい」と言った。

それがきっかけとなって昭和 40 年、甲府中学から甲府第一高校となっていた構内に大島校長の顕彰碑が建てられた。除幕式の記念講演会のメインスピーカーとして招かれた石橋湛山は、壇上にゆっくりと立ち上がりおもむろに口を開いた。湛山 81 歳、大島校長没して 27 年後である。



＜私は甲府一高の前身である甲府中学で2度ほど落第した。落第したということは生徒として不名誉なことで、誰も人の前で言いたくない。けれども私はこの事をおこがましくもお話する＞

こう切り出した石橋湛山は

＜もし私がその頃普通の勉強家であったなら、明治 32 年頃卒業していなければならなかった。そうだとすると私は大島校長の顔を知らず、声も聞かず、あの先生の教育方針の根本となったクラーク博士の遺訓なるものも知らなかったであろう。私は幾度か落第したために甲府中学に長く居残って、大島先生の教えることができた。



そして私はそれまでの私とはよほど違った覚悟と方針を持って、ここを卒業し、その後の学生生活を営み、また人生の長い道中を歩いてきた。落第のために卒業が遅れたこと、そして大島先生に出会ったために学問や生活の覚悟、方針を切り替えたということは、世間にありふれた事と言えましょうが …＞

ここまで静かに語ってきた背広姿で杖を片手に壇上に立っていた石橋湛山は突然絶句した。無量の感が胸を突き上げてきたのか、持病のぜんそくが起ったのか、このあと出てきた言葉は ＜不思議なことです、実に不思議と言うより他にありません＞湛山はそれだけ付け加えるのが精一杯だったのだろうか、そのまま降壇した。

これについて石橋湛山のスピーチを直接聞いた同窓生は、「石橋湛山は大島正健と言う名校長に巡り合ったことが ＜自分の生涯の運命の分かれ目だった＞、＜自分の新しい生涯の開拓者への面接だった＞と、はっきり言葉に現わさなかった。

しかし嵐のごとき拍手の響きの前に潜んでいた底深い沈黙には 《実に不思議と言う他はない》と言った石橋氏の最後の言葉を「奇蹟的邂逅」の意味に解釈させる力があつた」スピーチを聞いた同窓生が後にこのように書いている。（石橋湛山～人と思想～ 東洋経済新報社）

演説が仕事のような政治家で、しかも 80 を超えた百戦錬磨の湛山翁が、胸が詰まってどういっていい言葉が出ず、涙を流すこともなく沈黙する一、大島校長の言葉が走馬燈のようによぎったのだろうか、大きな影響を受けた大島校長に対する尊敬の念が強く感じられる。ここから石橋湛山の政治信条のベースとなった自由主義、民主主義、平和主義のルーツが生まれてきたのだろう。札幌農学校に入ったことでキリスト教と接することができた内村鑑三、落第を繰り返したことで大島校長と巡り合えて、国家主義・帝国主義が謳歌する中で、民主主義を知ることができた石橋湛山、《人生万事塞翁が馬》と言えようか。



甲府一高には、おらが学校から生まれた総理大臣の石橋湛山の像（右写真）が建てられている。総理大臣を育てた大島正健校長の顔と

Boys, be ambitious が刻まれた記念碑も校庭に建っている。Boys, be ambitious と刻まれた碑があるのは、恐らく北海道以外は山梨しかないのではなかろうか。10 年以上前から一度は見に行きたいと思っているが、なかなか思うようにはならない。没するまでにはぜひ行って見たいものだ。

(完)

「了解日本」(「日本を知る」(29))

愈彭年 (87歳)

13. 国民的祭典の進化(1)

第二次世界大戦が終結し、1948 年 7 月 20 日に日本政府が新たに制定した「国民の祝日に関する法律」(略称「祝日法」、日本語では祝日を「祝日」と呼ぶ)は、これまで 9 回改正されてきたが、最近の改正は 2005 年 5 月 20 日だった。この法律によると、日本の現在の国民の祝日は次のように規定されている。

元旦(1 月 1 日) 一年の始まりを祝う。

成人の日(1 月の第 2 月曜日、2012 年は 1 月 9 日)

男女青年の 20 歳の成人を祝い、青年の自覚的な成長を励まし、刻苦奮闘する。

建国記念日(2 月 11 日) 建国を記念し、愛国心を打ち立てる。

春分の日(2012 年の春分の日は 3 月 20 日) 自然を讃え、生物を大切にする。

昭和の日(4 月 29 日) 激動と復興を遂げた昭和を振り返り、国の未来を思う。

憲法記念日(5 月 3 日) 日本国憲法の公布を記念し、国の発展を期待する。

緑の日(5 月 4 日) 自然と触れ合い、自然の恵みに感謝し、豊かな心を育む。

こどもの日(5 月 5 日) 子どもの人格を尊重し子どもの幸せを願い母親に感謝する。

海の日(7 月の第 3 月曜日、2012 年は 7 月 16 日)

海の恵みに感謝し、海洋国「日本」のさらなる繁栄を祈る。

敬老の日(9 月の第 3 月曜日、2012 年は 9 月 17 日)

長年社会のために尽力してきた高齢者を敬い、長生きを祈る。

秋分の日(2012 年の秋分は 9 月 22 日) 祖先を尊敬し、亡くなった人々を偲ぶ。

体育の日(10 月の第 2 月曜日、2012 年は 10 月 8 日)

スポーツを愛し、健康的な体を持つ。

文化の日(11 月 3 日) 自由と平和を愛し、文化を発展させる。

勤労感謝の日(11 月 23 日)

勤労を尊び、出産を祝い、国民の間で感謝の意を表す。

天皇誕生日(12 月 23 日) 現在在位中の平成天皇誕生日を祝う。

上記は法定祝日で、全部で 15 あり、我々中国より多い。祝日は、全国が休みになる。祝日が日曜日にあたる場合は、その翌日も休日になる。

このほか、日本には 2 月 3 日の**節分祭**(中国古代儺礼に由来し、立春前日の夜、神社や寺、家で「鬼は外福は内」と叫びながら炒った大豆を撒いて邪気を払い、福を招く。2 月初午日の**初午祭**(2012 年は 3 日、稲荷神社に稲荷神を祭る)、3 月 3 日の**桃の節句**、4 月 8 日の**花祭**(釈迦誕生を記念し、灌仏会、降生会とも呼ばれる)、5 月 1 日の**メイデイ**、5 月 5 日の**端午の節句**、7 月 7 日の**七夕**、7 月 15 日の**新歴盂蘭盆会**(墓参り、先祖の霊を忍ぶ)、8 月 15 日の**旧暦盂蘭盆会**、旧暦 8 月 15 日

の**中秋**(2012 年は新暦 9 月 15 日)、11 月 15 日の**七五三**(子供の成長を祝い、男の子は 3 歳と 5 歳、女の子は 3 歳と 7 歳になると、両親は晴れ着姿の子供を家のある地域の神社につれていき拝礼、子供が成長したことを報告、保護神が子供を守り続けることを祈って、お祓いを受ける)、12 月 25 日の**クリスマス**等がある。

これらの法定祝日には歴史的な由来がある。

「**元旦**」の祝日の前身は、天皇が皇居で自ら祭祀を行った四方拝と歳旦祭であり、「**成人の日**」は、日本古来の<元服の儀式>に由来する。

「**建国記念日**」の前身は紀元節で、初代天皇の神武天皇即位を記念し、天皇朝の始まりの日である。

春分祭の前身として「春季皇霊祭」があり、「春分の日」に天皇は皇祖皇宗を祀り、皇祖皇宗の加護を祈願する。

「**昭和の日**」は、最初は天長節(「天長」は老子の『道德経』から来る:天長、地久による。**天地之所以能長且久者、以其不自生也、故能長生**。中国では昔、帝王の誕生日を千秋節、唐玄宗はそれを天長節、日本は唐を模している。)と呼ばれ、天皇の誕生を祝い、天皇の万歳を祈った。第二次世界大戦後は(昭和天皇の)「天皇誕生日」となり、昭和天皇の逝去後は「緑の日」、その後、昭和天皇を偲んで「昭和の日」に改めている。

「**緑の日**」はもともと 4 月 29 日だったが、4 月 29 日を「昭和の日」としたため、2007 年から 5 月 4 日に変更された。名称はそのままだが、新設された国民の祝日と言える。

「**子供の日**」は、民間の伝統的な端午の男子稚児祝いに由来する。

「**海の日**」の前身は、海洋記念日で、1876 年に明治天皇が東北と北海道を巡幸した後、明治丸汽船で横浜に戻った日が記念日となった。

「**敬老の日**」は、もともと「老人の日」と呼ばれていたが、1966 年に「敬老の日」と改称された。

「**秋分の日**」の前身は秋の皇霊祭で、「秋分の日」に天皇は皇祖皇宗を祀り、皇祖皇宗の加護を祈願する。

「**体育の日**」は、1964 年に東京で開催された第 18 回オリンピックを記念し、10 月の第 2 月曜日の開会式の日に定めている。

「**文化の日**」の前身は、明治の日で、明治天皇の誕生を記念している。

「勤労感謝の日」の前身は、新嘗祭で、天皇は祭祀式を行い、収穫した穀物を天神地神に奉納し、豊作を神に感謝し、来年の五穀豊穡の加護を願い、そして収穫した新穀物を自ら食す。

「**天皇誕生日**」は現在在位している平成天皇明仁を記念する生誕日である。

日本の国民の祝日は由来から見て、15 の祝日の中で天皇と皇室の祭祀と関係がある祝日が 9 つあり、天皇制と神国文化の影響が今でも大きいことがわかる。

(2012 年 9 月 9 日)

E・ライシャワの日本昭和史(10・最終)

津田 孚人(87歳)

:「ライシャワの昭和史・ジョージ・R・パッカー著・森山直美訳、講談社」より

対日政策の本質的な決定が国務省で下されようとしていた。しかし、ジョセフ・グル

一と「ジャパン・ハンズ(日本専門家)」は、戦争終結と同時に引退し、極東部門は、親中派のキャリア・オフィサー、J・C・ビンセント部長が引き継いだ。

1945年11月、ライシャワーは、ビンセント部長の代理に就任し、政策立案に直接かかわる立場になった。この時点で、国務、陸軍、海軍三者調整委員会(SWNCC)の小委員会に在籍した日本専門家は、ライシャワーとH・ボートンの二人のみであった。

一番の問題は、天皇の処遇だった。天皇を戦争犯罪人として裁き、退位を強要すべきか、それとも、民主化と非軍事化という占領目標のために天皇を利用すべきなのか。新聞と世論は、正当な理由のない日本の真珠湾奇襲攻撃に復讐すべし、と声高に要求した。そのスケープゴートにするのに天皇は申し分なかった。

1945年、アメリカの世論は復讐一色にそまり、日本の現実に目を向けようともしなかった。評判の高いコラムニストは、「ワシントンポスト」紙にこう書いた。

「日本国民が敗北の事実を直視することは心理的にほとんど不可能である。・・・日本について知識がある少数の西洋人は、”天子”に近づいていって、日本は破れたのだと告げることができる日本人がいるだろうか、と思っている。それに、これからは彼がアメリカの司令官から下された命令を実行しなければならなくなる。これは、”ジャップ”の性格に完全に反している。」

[タイム誌]はこうコメントした。「御しやすい”ジャップ”だって？ 厳しく統制されていて迷信深く、情報をもたない日本人が、大人しく天皇に従うだろうか。ワシントンの専門家は意見が分かれている。快適な1920年代の日本を知っている者の多くは、日本人は従うだろうと考えた。日本人は好戦的な国民ではないという者さえいる。しかし、戦場で日本人とぶつかった人たちは違う意見だった。」

ルーズベルト大統領は、1943年1月、カサブランカで英国のチャーチル首相と会談し、枢軸国に対する無条件降伏政策を発表していた。45年7月、戦争が徐々に終息に向かうと、日本は必死に終結の道を模索しだした。

グルーとジャパン・ハンズたちはルーズベルト大統領に、無条件降伏要求を修正し、降伏後、東京の和平派を強化する手段として、天皇は保持されると公に宣言するよう説得した。だが、じっさいには1945年7月26日のポツダム宣言はこの点が曖昧なままでしかなく、天皇の将来は、日本国民の意思に従って決められると述べるにとどまった。

いうまでもなく、この曖昧さは、最後まで戦いたがっている主戦派の陸軍長官たちを強気にさせるばかりだった。日本政府は、「黙殺」の方針で、ポツダム宣言を無視し、広島、長崎への原爆投下、ソ連の参戦がつづき、8月15日、日本は降伏した。

日本は天皇制が救われるとの理解のもとにポツダム宣言を受託したが、トルーマン大統領は、8月15日のマスコミ向けの声明で、日本の降伏は「無条件」であると明言していた。かくして、天皇と皇位の将来は宙に浮いてしまった。

ライシャワーとH・ボートンは、天皇が保持されるべきであると上司のJ・C・ビンセントを説得することができたが、SWNCCの陸軍省と海軍省のメンバーは、天皇は戦争犯罪人として裁かれ、罰せられるべきだと言い張った。9月25日アメリカ議会は、「天皇ヒロヒトが、戦争犯罪人として裁かれることは合衆国の方針」と宣言する決議について討論し、結果、可決されなかった。ワシントンの討論は、最終的にいきづまり、11月30日付けの文書で、日本占領中の連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥に最終決断をくだす権限が与えられた。

マッカーサーは、3つの要因にもとづいて、天皇を日本国民の統合の象徴として保持することに決めた。

第一の要因は、グルーとボートンとライシャワーが示した論拠であり、第二には、協力をする意思を持った平和主義者の天皇イメージをつくろうとした宮中インサイダーによる工作の成功、第三に、天皇の力を借りて、日本にキリスト教を広めたいという彼個人の目標、だった。

これが、ライシャワーが最初の対日政策形成に提供した最初の具体的なインプットであり、彼は大いに満足した。

ライシャワーは1946年琉球列島と千島列島の処分の計画案作りも助けた。ソ連が占領する齒舞と色丹は日本に返還されるべきと彼は考えたが、ロシア人はいっさい手放す気がなかった。それだけでなく、ソ連は北海道の占領を狙っていた。

朝鮮についての4ヵ国による五ヵ年の信託統治具体化についてのライシャワーの努力も、朝鮮人の大半は独立が遅れると反対、同様に失敗に終わった。

「アメリカは、敵国日本の将来を準備するために多大の精力をついやしたにもかかわらず、35年に及ぶ日本の支配から解放せんとする、友邦韓国の将来のためには一切準備せずとは、何とも皮肉である」とライシャワーは、後にコメントしている。

ロシア人がもう二、三週間早く参戦し、北海道を占領し、東ドイツでやったような振舞をしたなら日本はどうなったか、忘れがちである。占領というものは、歴史を振り返るとつねに残酷な出来事だった。レイプ、拷問、復讐、餓死、病死、鳴民状態、そして敗北した軍隊、数百万人の永久的消滅—これが例外でなく必ず起きた。

日本の占領は、征服された国家に立憲民主制を軍事的におしつけたケースの、驚くべき成功例となった。4年以上の周到な計画にもとづき、地域の最上の文民専門家の知識を活かし、ターゲット国家の歴史と文化を理解して利用し、リベラルな分子を説得する寛容な政策を採用、既存の政府機関を利用して改革を実行した。

そして何よりも日本国民の象徴的な国力快復点として天皇と皇位を保持したことである。日本の皇位が、すべてを考慮すれば、戦後日本の民主主義の力となってきたことは疑いようがない。ライシャワーをふくむアメリカの対日専門家は、これらの計画をつくり出すために重要な役割を演じた。

計画の実現の面では、マッカーサー元帥の多大な功績が認められて当然である。しかしながら、最大の功績は、新しい条件に適合し、今日、世界で最強かつ最も成功した民主主義国家の一つを作りだした日本国民にある。

国務省に入ってほぼ一年後の1946年、別の野心がエドウィン・ライシャワーをとらえていた。基礎資料を書いて、アメリカ人に日本と東アジアについて教育し、新世代のハーバードの学生を養成し、さらにメディアとさまざまな公開フォーラムで政策意見を発表していきたい、という野心であった。

彼は最初の行動を起こした。「日本—過去と現在」が46年、クノッフ社から出版された。この本は、日本の歴史、文化、政治体制を通して日本人を包括的にとらえた最初の英語文献となった。しかし、それだけではなく、1905年、いやそれ以前からアメリカ人の頭に植え付けられていた醜いステレオタイプの日本人像(ジャップ)に異を唱えていた。大胆で画期的ともいえるプロジェクトだったが、そのとき、ライシャワーはそれに着手するだけの自信と技能を備えていた。

次の15年間は、ハーバード大学が彼の舞台となり、1961年、ジョン・F・ケネディ

大統領が、彼を駐日アメリカ大使に任命した。

(今回にて終了)

講演会

特別講話会 3/25(火)

講話者 宮川公男一橋大学名誉教授、大月康弘一橋大学副学長

テーマ:「経済学・統計学を学んで70余年」

笠信太郎氏や中山伊知郎・都留重人・杉本栄一各教授
の思い出等々と日本の未来論を語る。

時間: 11:30~15:00(昼食 11:40~、講話会 12:30~15:00)

会場:如水会館(神田・一橋際)・3F・松風の間、

会費:5千円(会場受付)

申込はメール送信のみ: shinsanmokukai@gmail.com

講師の宮川名誉教授は現在93歳。高度成長期の経企庁と一橋の二重生活は熱気溢れるものでした。当時、先端を走るORの普及では防衛庁の学内聴講を断り外で指導、MIS(経営情報システム) PPRS(計画予算プログラム)導入、コンピューターを駆使しての国への貢献は相当な実績を残された。今、日本と世界の未来への大転換に如何に臨むべきか、その相手役を歴史学者・大月副学長が勤める。

奈良 興福寺佛教文化講座

日時 4月19日(土) 13時15分~15時35分

会場 (学)文化学園 文化服装学院内

(渋谷区代々木3-22-1)(都営新宿線「新宿駅」から3分)

第一講:「メディアとしての祭礼法会」

NHKエデュケーショナル チーフプロデューサー 角野 史比古

第二講:「一南都焼討一仏師・運慶復興の決意」

興福寺 貫主 森谷 英俊

受講料:1000円・先着200名

天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

住所:〒116-0001荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス: tentisenior06@gmail.com

電話(携帯):090-2534-1316